

研究スタッフ

教授：乾 健太郎

准教授： 岡崎 直観

助 教： 渡邊 陽太郎

特任助教：松林 優一郎

研究員： 井之上 直也

福原 裕一、菅野 美和、

山口 健史、C. Kruengkrai

研究目的

情報伝達のための最も重要なメディアは、日本語や英語など、誰もが日常で使っている言語（ことば）です。人が話すこうした言語を、情報科学では「自然言語」と呼びます。本研究室では、自然言語で表現され、伝達され、蓄積される情報や人の知識をコンピュータで処理するための基礎理論、基盤技術、応用技術に関する研究を行っています。

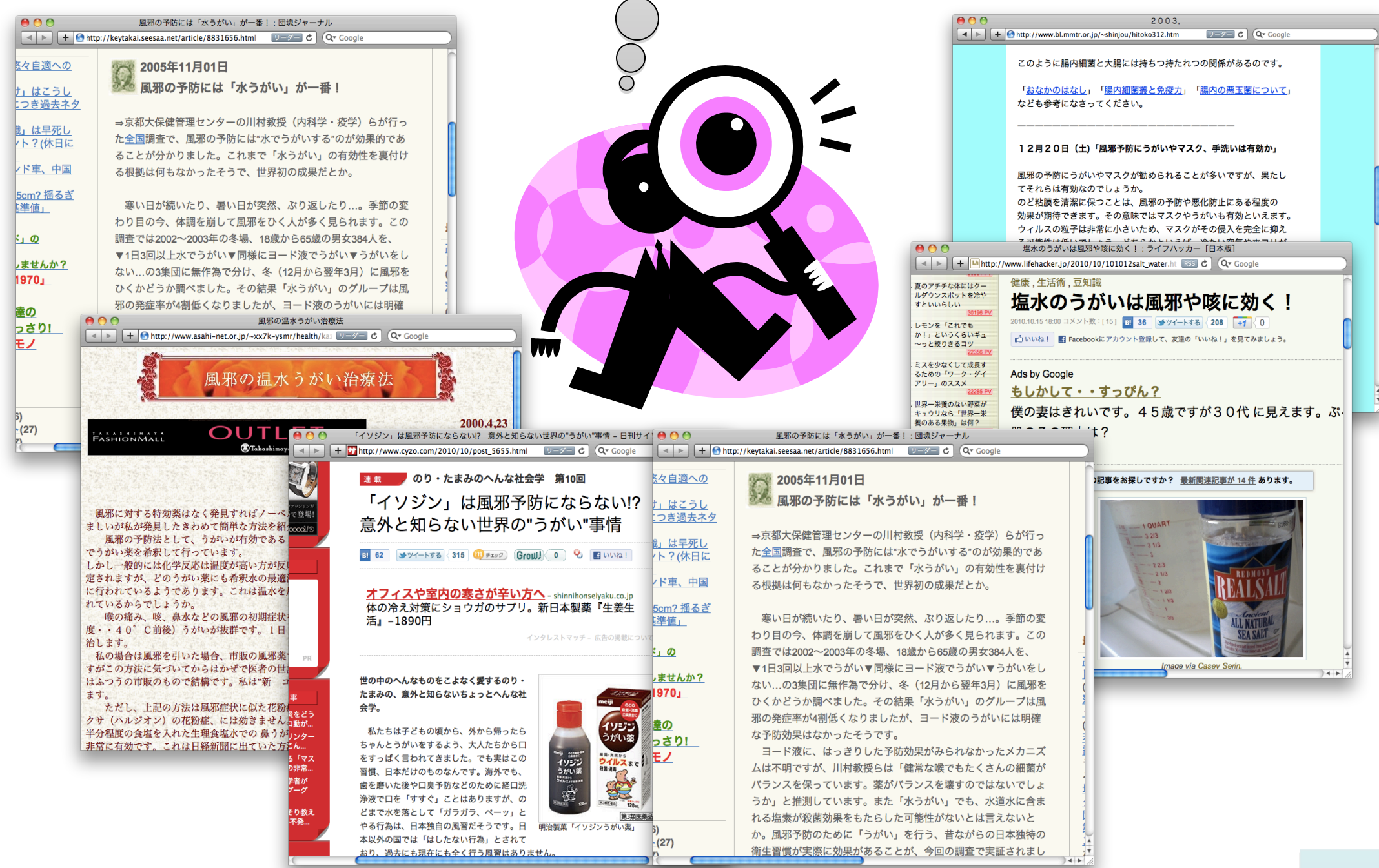
主な研究テーマ

1. Web情報分析 (言論マップ生成)

Webには多様な情報があり、検索エンジンによって容易に入手できるようになりました。しかし、一つの情報をただちに信じることは危険な場合があります。

- 虚偽の情報（意図的，無知識，無責任）
- 個人の経験に基づく意見

うがいには風邪を予防できる？



賛成・反対意見が俯瞰でき、
理由も調べることができます

賛否によるネット情報の自動分析は世界初

言語処理学会 最優秀発表賞(2010)

言語処理学会 若手奨励賞(2010)

CICLing Best Paper Award(2011)

日経新聞技術トレンド調査 総合3位(2011)

情報処理学会 山下記念研究賞(2012)

2011年(平成23年)5月30日(月曜日)

目的鮮明な産学連携 評価

技術トレンド調査総合順位 1~10位

順位	研究開発者 (発注先)	成果の概要	評価点
1	東京大学・コカミ ノルタエムジヤード (2)	軟体膜式X線装置開発、 数枚の成熟した機	1位の X線 装置の 成 熟した 機
2	日立製作所 (2010年12)	NEC、東北大学、 奈良先端科学技術大 学院大学、横浜国立 大学 (1月31日)	ネットの情報、賛否を分 析・表示、信頼性判断に 有用

X
線
装置

「技術トレンド」

日本経済新聞社は、主たる技術トレンドを調査

2011年度技術トレンド調査

